



学校だより

平成28年 9月 30日

練馬区立田柄第二小学校

校長 谷田 弘子

HP <http://www.tagara2-e.nerima-kyo.ed.jp> e-mail info@tagara2-e.nerima-kyo.ed.jp

教育目標:元気な子ども・考える子ども・思いやる子ども

No.461

守・破・離

校長 谷田 弘子

明日10月1日は、運動会です。水泳指導が終わった9月12日から、各学年の練習に力が入ってきました。9月後半は天候が不順で台風も多く通りましたので、なかなか練習を外で出来ない日が続いていました。晴天の下で力を発揮できることを願っています。1年生にとって小学校で初めての運動会、6年生にとっては、小学校生活最後の運動会となります。精一杯のがんばりを期待しています。

今年の夏には、ブラジルでオリンピック・パラリンピックが開催され、4年後の東京に向けて、オリンピック・パラリンピックへの機運が高まっています。本年度、田二小の新たな取組として、「聖火入場」が行われます。プール納めの会が行われた日より、1年1組から順に聖火が教室を回ってきました。6年4組に送られた後、運動会当日は、赤白の応援団長が聖火をもって入場します。楽しみにしててください。

さて、江戸時代に千家流の茶を広めた「川上白」という茶人の言葉に、「守・破・離」があります。茶道の世界ではいろいろな流派があって、それぞれ独特の奥義があるそうです。白は、茶の湯を志す人には身分に関わりなく誰にでもその奥義を教えた人と伝えられています。「守・破・離」という言葉ですが、「茶の道」を究めるための三つの段階を示すものです。

はじめは「守」の段階です。「守」は「まもる」と読みます。先人や師の教えを忠実に守って、基礎・基本をしっかり身に付けることをいうのです。これを、ある人は「ラクダの時代」と呼んでいます。つまり、ラクダが砂漠を我慢強くこつこつと歩く姿をイメージしています。

次は「破」の段階です。「破」は「やぶる」と読みます。これは基礎・基本の上に立ってさまざまなことにチャレンジしながら、自分なりの実力や個性を身に付けていく段階です。「ライオンの時代」と呼ぶ人もいます。ライオンが大草原に出て勇猛果敢に冒険していく様子をイメージしているのでしょう。

最後は「離」の段階です。「離」は「はなれる」と読みますから、自由自在に新しい境地を切り開くという段階です。これを、「小児の時代」とも言っています。子供は遊びの天才です。思いもかけない発想で想像力が豊かです。正直な心で自分なりの独創的な境地を切り開いていくという意味なのでしょう。

その道の達人になるためには、それはそれは厳しい鍛錬と修行が必要なことは誰でも分かります。ただがむしゃらに自己流を貫いても、なかなかその道を究めることはできません。この「守・破・離」の心は、その後、武道をはじめ、お茶やお華、その他さまざまな分野で、その道を究める上で大切なこととして大きな影響を与えています。

2学期後半、地域にお住まいの裏千家の先生を招いて、3年生から5年生対象に茶道教室を行います。6年生は来年になってから、卒業大茶会を行います。6年生は自分で使う茶碗を図工の時間に作って、お茶を点てます。

「守」の段階として、基礎・基本を学んでほしいと思います。日本の伝統文化は、世界中でブームとなっていますが、日本の子供たちが知らないというのは、とても残念なことです。その道の技術だけでなく精神を学ぶことも大切です。良き学びの機会となることを願っています。